

# 決算概要

2023年11月16日

専務取締役 管理統括 経営企画本部長

余語 岳仁



# 事業の概況

## 製造・購買・物流

2023年度のダイアライザライン(インド、秋田大館)の新設は下記。

秋田大館工場の8ライン目は予定通り10月に稼働を開始し、24年4月に9ライン目の新規稼働予定。

2023												2024			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
	インド ダイアライザ 4ライン目 新規稼働	大館 第5工場 火災発生 ダイアライザ生産ライン 一部損傷							大館工場 ダイアライザ 8ライン目 新規稼働						大館工場 ダイアライザ 9ライン目 新規稼働予定

## 販売

- 透析用医療機器 : ダイアライザは北米にて販売減少するも、中国、ヨーロッパ、アジアにて好調。中南米にて透析センターが拡大。
- 循環器用医療機器 : 国内独占市場であった薬剤溶出バルーンが、他社参入による影響により販売減。
- 外科用医療機器 : HeartMate3が保守売上を含め、引き続き堅調に推移。
- 自社医薬品 : 経口剤はネキシウムAG販売が好調、注射剤は不採算再算定品目の薬価UPと販売数量増加で大きく伸長。
- 受託医薬品 : 日本では顧客の在庫調整によって経口剤が前年対比で減少したが、注射剤は新規受託品の出荷開始等によって販売増加。海外はJMIファーマの販売が堅調に推移。
- ファーマパッケージング : 生地管は欧州、米国にて円安の影響と販売価格へのコスト転嫁により販売増加。米国のバイアル価格の引き上げ、欧州のアンプルの需要増により販売増加。

## 臨床試験

臨床試験の実施や承認申請への大きな影響はなし

## サステナビリティに配慮した新包装資材「CLEARSHIELD®」の導入（9月11日）

中空糸型透析器（ダイアライザ）、血液透析濾過器（ヘモダイアフィルタ）および持続緩徐式血液濾過器の包装資材として、「CLEARSHIELD®」を開発し、10月より導入を開始。この包装資材は既存のアルミニウム材料と同様に各製品の高い性能と品質を維持するために優れたガスバリア性や、破損の発生リスクを軽減する強度を有しながら、生産時のCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献する。

# 2023年度2Q 業績

	2022年度 2Q	2023年度 2Q	増減額 (増減率)	上期予想 (進捗率)	2023年度 通期予想 (5月時点)	2023年度 通期予想 (11月時点)
売上高	2,603.3	<b>2,858.6</b>	+255.2 +9.8%	2,943.9 97.1%	5,992.4	5,992.4
売上原価	1,814.7	<b>2,000.6</b>	+185.8 +10.2%	2,050.5 97.6%	4,194.6	4,199.1
売上総利益	788.6	<b>858.0</b>	+69.3 +8.8%	893.3 96.0%	1,797.7	1,793.3
販売管理費	724.9	<b>723.1</b>	△1.7 △0.2%	779.2 92.8%	1,557.7	1,553.3
営業利益	63.7	<b>134.8</b>	+71.1 +111.7%	114.1 118.1%	240.0	240.0
経常利益	116.0	<b>147.3</b>	+31.3 +27.0%	94.6 155.7%	206.5	206.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	62.5	<b>99.3</b>	+36.7 +58.8%	54.2 183.2%	112.0	112.0
IFRSに準拠した場合の 当期純利益(概算額)	73.8	<b>110.2</b>	+36.4 +49.3%	64.7 170.3%	133.0	133.0

四半期別業績推移				
2022年度		2023年度		
2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
1,324.4	1,459.6	1,272.3	1,405.9	<b>1,452.7</b>
927.9	1,028.7	886.2	975.3	<b>1,025.3</b>
396.5	430.8	386.1	430.6	<b>427.4</b>
29.9%	29.5%	30.3%	30.6%	29.4%
362.3	362.7	317.4	357.2	<b>365.9</b>
27.4%	24.9%	24.9%	25.4%	25.2%
34.1	68.0	68.7	73.3	<b>61.5</b>
2.6%	4.7%	5.4%	5.2%	4.2%
42.6	21.6	81.1	89.0	<b>58.3</b>
3.2%	1.5%	6.4%	6.3%	+4.0%
9.7	7.0	37.3	40.9	<b>58.4</b>
0.7%	0.5%	2.9%	2.9%	+4.0%

(※1) 売上総利益への未実現利益の影響額  
 2022年度2Q △11.4億円 2023年度2Q +65.4億円  
 2023年度2Q △12.6億円 2023年度2Q +36.0億円

(※2) 為替損益  
 2022年度2Q △11.4億円 2023年度2Q +65.4億円  
 2023年度2Q △12.6億円 2023年度2Q +36.0億円

- 売上高 国内では医薬ネキシウムAGの販売好調と不採算再算定による注射剤の薬価上昇により増加。海外では円安影響もあり、医療機器は全地域で販売が好調、ファーマパッケージングは欧米で生地管の販売が増加。
- 売上総利益 原材料費、労務費、エネルギー費、償却費の増加により、売上総利益率は対前年微減。
- 営業利益 海外のコンテナ費用の下落による運送費減少に加え、研究開発費を抑制し、営業利益は対前年で71.1億円増加。
- 経常利益 為替差益が29.4億円減少し、支払利息が8.2億円増加するも、経常利益は対前年で31.3億円増加。
- 当期純利益 子会社の持分譲渡損16.7億円発生するも、政策株式の売却益が34.6億円増加し、当期純利益は対前年で36.7億円増加。

# 2023年度 通期予想の変更（全体）

	2022年度 実績	2023年度 通期予想 (5月時点)	2023年度 通期予想 (11月時点)	通期予想 増減額 (増減率)
売上高	5,451.9	5,992.4	5,992.4	0.0 +0.0%
売上原価	3,817.4	4,194.6	4,199.1	+4.5 +0.1%
売上総利益	1,634.4 30.0%	1,797.7 30.0%	1,793.3 29.9%	△ 4.4 △0.2%
販売管理費	1,457.2 26.7%	1,557.7 26.0%	1,553.3 25.9%	△ 4.4 △0.3%
営業利益	177.2 3.3%	240.0 4.0%	240.0 4.0%	0.0 +0.0%
経常利益	153.4 2.8%	206.5 3.4%	206.5 3.4%	0.0 +0.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	45.7 0.8%	112.0 1.9%	112.0 1.9%	0.0 +0.0%

- 売上高 上期実績は予想を下回ったものの、下期予想を上方修正し、通期予想は変更なし。
- 売上総利益 期初予想よりも原材料費、エネルギー費が増加しており、売上総利益率は下方修正。
- 営業利益 人件費は期初予想より増加する見込みだが、運送費、研究開発費が減少しているため、営業利益率は期初予想を据え置き。
- 経常利益 期初予想を据置。
- 当期純利益 特別損益は期初予想から大きな変動無く、当期純利益は期初予想を据置。

# 販売費および一般管理費 主要科目

## 【販売費および一般管理費】

単位:億円	2022年度 2Q	2023年度 2Q		増減	増減率	2023年度 5月時点 通期予想	2023年度 11月時点 通期予想
		実績	構成比				
人件費	216.4	241.9	33.5%	+25.5	+11.8%	474.2	504.2
研究開発費（※1）	100.4	83.8	11.6%	△16.6	△16.5%	190.5	170.8
運送費	110.8	69.8	9.7%	△41.0	△37.0%	186.4	140.0
償却費（※2）	54.6	65.9	9.1%	+11.3	+20.7%	115.3	132.0
販促費（※3）	48.7	48.3	6.7%	△0.4	△0.8%	102.0	102.0
旅費交通費	20.8	26.5	3.7%	+5.7	+27.4%	47.2	53.0
保管料	18.1	17.3	2.4%	△0.8	△4.4%	35.3	35.3
上記以外の科目	154.5	169.3	23.4%	+14.8	+9.6%	406.6	416.0
合計	724.9	723.1	100.0%	△1.8	△0.2%	1,557.7	1,553.3

（※1） 研究開発費・試験研究費

（※2） 減価償却費・のれん償却費・開発償却費

（※3） 販売手数料・見本品費・広告宣伝費・交際接待費

- **人件費** 海外における円安影響に加え、従業員も増加したことにより、前年対比で25.5億円増加。
- **研究開発費** 対前年より16.6億円減少。主な要因は次スライドにて説明。
- **運送費** 海外におけるコンテナ運賃等が昨年末から相場下落し、前年対比で41.0億円減少。
- **償却費** ネキシウムAGのライセンス償却費などにより、前年対比で11.3億円増加。
- **旅費交通費** コロナ影響緩和に伴い対面での営業活動や出張を徐々に再開していることから前年対比で5.7億円増加。
- **上記以外の科目** 次スライドにて主な増加要因を補足説明。

# 販売費および一般管理費 補足

## 【販売費および一般管理費 補足】

単位:億円	2022年度 2Q	2023年度 2Q		増減	増減率	2023年度 5月時点 通期予想	2023年度 11月時点 通期予想
		実績	構成比				
支払手数料	30.6	33.2	4.6%	+2.6	+8.5%	62.6	67.0
賃借料	23.9	25.1	3.5%	+1.2	+5.0%	60.6	51.0
事業税等	7.0	8.2	1.1%	+1.2	+17.1%	19.7	17.0
保険料	3.2	4.1	0.6%	+0.9	+28.1%	9.8	9.0
通信費	5.2	6.1	0.8%	+0.9	+17.3%	14.7	13.0
会議費	2.6	4.2	0.6%	+1.6	+61.5%	9.2	9.2
その他	74.6	81.1	11.2%	+6.5	+8.7%	230.0	249.8
合計	154.5	169.3	23.4%	+14.8	+9.6%	406.6	416.0

- **支払手数料** 販売委託に伴う手数料や透析装置の開発・保守の委託費が増加したことにより、前年対比で2.6億円増加。
- **賃借料** 国内医療機器、医薬品物流倉庫の移転・拡大により、前年対比で1.2億円増加。
- **事業税等** 増資により、前年対比で1.2億円増加。
- **保険料** 前年に自然災害が多かったことに伴う米州での保険料率の増加に加え、海外出張者増加に伴う海外出張時の保険料の増加により、前年対比で0.9億円増加。
- **通信費** 本社移転に伴う通信インフラの整備費用に加え、中国の透析センターが連結されたことにより、前年対比で0.9億円増加。
- **会議費** 新型コロナ影響の緩和に伴い対面での会議が再開され始めたことにより、前年対比で1.6億円増加。

# 販売費および一般管理費 研究開発費

## 【研究開発費(内訳)】

	2022年度 2Q	2023年度 2Q	増減 (増減率)	通期予想 2023年度 5月時点 (進捗率)	通期予想 2023年度 11月時点 (進捗率)
単位:億円					
医療	43.3	<b>40.3</b>	△3.0 △6.9%	88.1 45.7%	81.2 49.6%
医薬	55.3	<b>42.0</b>	△13.3 △24.1%	99.5 42.2%	86.5 48.6%
ファーマ パッケージング	1.8	<b>1.5</b>	△0.3 △16.7%	2.9 51.7%	3.1 48.4%
合計	100.4	<b>83.8</b>	△16.6 △16.5%	190.5 44.0%	170.8 49.1%

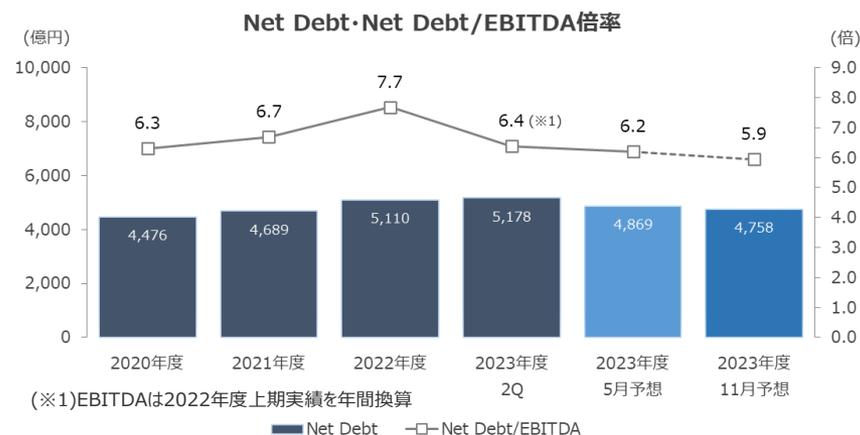
- **医療** 前年は冠動脈用薬剤溶出ステントに係る治験費用を計上していたため、今年度は前年対比で3.0億円減少。
- **医薬** 前年は各種治験の実施が多かったことにより、前年対比で13.3億円減少。
- **PP** 新たなガラス製品の開発費用については、前年対比で0.3億円減少。

# 中期経営計画における主要KPI - ①

## 2024年度に向けたガイドライン

成長性	売上高成長率	年平均7.0%以上
収益性	営業利益率	9.0%以上

財務健全性 EBITDA純有利子負債倍率 4倍台



### ➤ 売上高成長率

2021年度下期頃からコロナ影響の緩和に加え、円安効果で海外売上高が押し上げられたこともあり、2022年度までの2年間の売上高年平均成長率は9.4%。2023年度上期では対前年同期で9.8%の成長。2023年度通期では売上高成長率は9.9%を見込んでおり、平均成長率もガイドライン7.0%を上回る水準となる予想。

### ➤ 営業利益率

運送費相場の上昇に加え、原材料費やエネルギー費の高騰が影響し2020年度以降の営業利益率は下落傾向にあったが、2022年度下期から海外船運賃の下落によって回復基調にある。2023年度上期は海外船運賃の下落に加えて研究開発費の抑制により営業利益率は4.7%となった。通期では秋田大館工場新棟の償却負担とニプロファーマ新稼動ラインの償却負担によって4.0%と予想。

### ➤ 純有利子負債

積極的な設備投資の結果、純有利子負債は増加傾向。2023年度上期は秋田大館工場の新棟やニプロファーマ近江工場の新設に係る設備投資が膨らみ有利子負債は増加で推移した。下期は資産の売却、在庫の削減、債権流動化によるフリーCFの改善により純有利子負債を圧縮する予想。

### ➤ Net Debt/EBITDA倍率

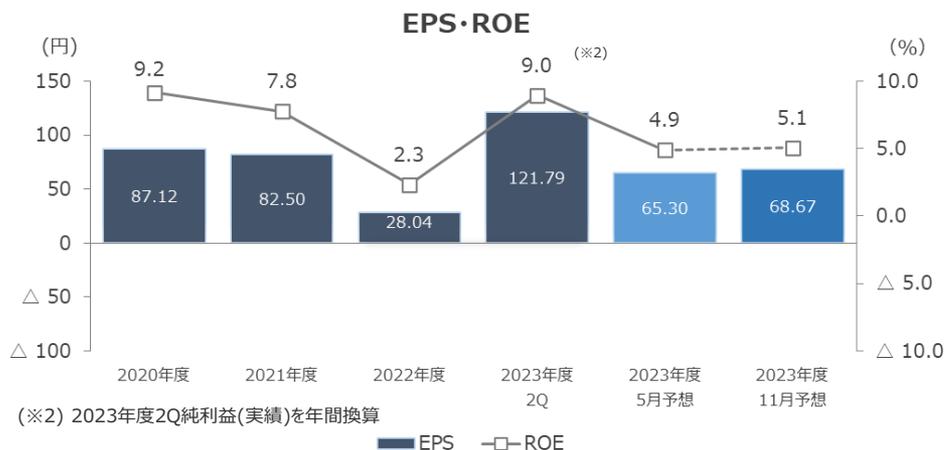
EBITDAは2023年度上期は営業利益の改善により増加傾向。

2023年度上期は、純有利子負債が増加するもEBITDAの改善によりNetDebt/EBITDA倍率が6.4倍まで減少した。下期は有利子負債の圧縮に努め、通期では5.9倍まで減少する予想。

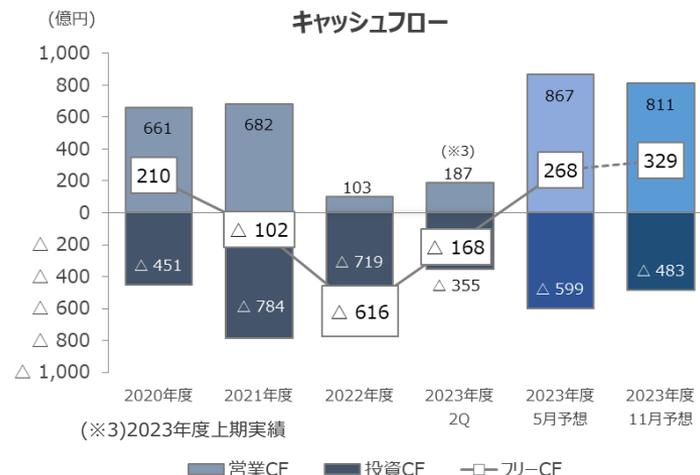
# 中期経営計画における主要KPI - ②

## 2024年度に向けたガイドライン

資産効率 ROE 14.0%



投資効率 フリーキャッシュフロー 黒字化



### ➤ ROE

2023年度上期は営業利益増加に加えて持合株式の売却益により当期純利益は対前年で増加。

自己資本は増加したものの、当期純利益の伸びが大きく、EPSは年間換算121.79円、ROEは年間換算9.0%と通期予想を上回る水準で推移。

下期では上期と比べて当期純利益が減少見込みであることから、通期ではROEは5.1%、EPSは68.67円の予想。

### ➤ フリーCF

2023年度上期営業CFは棚卸資産、売上債権が増加したため、187億円で着地。投資CFは政策株式を売却したが、固定資産の取得により355億円の発生。営業CFが前年より高く推移するも、新規投資支出を賄わず、フリーCFは168億円の赤字。下期では債権流動化の促進と棚卸資産の圧縮による営業CFの改善に加え、固定資産売却により投資CFが抑えられ、フリーCFは期初予想より上方修正。

本資料における予測数値等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。

実際の業績等は今後の様々な要因により、本資料の記載事項と大きく異なる可能性があります。

